

第 2 回 会議結果概要

開催概要	
日 時	平成 22 年 9 月 19 日(日) 13 時 00 分 ~ 16 時 00 分
場 所	一宮シーサイドオーツカ
参加者数	45 名(委員 23 名(代理出席を含む)、傍聴者 18 名、報道関係者 4 名)
結果要旨	
<p>第 1 回開催結果概要</p> <p>資料 1「第 1 回開催結果概要」を基に事務局から説明した。</p> <p>委員からの現状報告</p> <p>秋山委員(九十九里浜自然史博物館館長)からの報告</p> <p>資料 2 を基にスナメリ、ミユビシギ、ウミガメなどについて説明があった。</p> <p>伊東氏(齊藤委員の代理)からの報告</p> <p>資料 3 を基に地曳き網の仕組みと現状について説明があった。</p> <p>中村委員からの報告</p> <p>資料 4 を基にサーフィンについて説明があった。</p> <p>近藤委員からの報告</p> <p>資料 5 を基に近藤委員が考える魅力ある海岸について説明があった。</p> <p>侵食対策について</p> <p>資料 6 を基にヘッドランドの整備状況、当面の整備優先順位及び本年度の養浜について千葉県から説明した。</p> <p>意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> 千葉県が計画をやめてしまうと、国からの予算がもらえなくなる。計画を変更する場合には、技術的な理由や地元住民の意見など、国に対してしっかりと理由を説明できるようにしなければならない。 茨城県鹿島灘では、ヘッドランド周辺で発生する離岸流による水難事故が多発したため、ヘッドランド周辺を立入禁止区域にしている。一宮でもヘッドランド周辺が立入禁止区域にされてしまう可能性がある。離岸流を止めるような構造物を考えて欲しい。 侵食対策は、しなければならないと思っている。ただ、地曳き網をするにはヘッドランドの間隔は、広い方がよい。 縦堤は、サーファーが沖に出やすい離岸流が発生するので問題無いが、横堤はシーズンによって波が立たなくなってしまうので、好ましくない。 太東漁港の南側の砂浜には、今まで、ウミガメが 1 例だけ上陸したが、産卵しないで U ターンしてしまった。しかし、太東漁港南側の砂は、もともと九十九里に供給されていた砂であり、私が見た限りでは、いい砂だった。一宮川河口の堆積土も良いと思う。シルトが多い場合は、1,2 年雨ざらしにしておけばいい。 縦堤の先端が崩れないようにするには、マッチ棒の用に先端だけくるむ形ではだめなの 	

か。また、ヘッドランドは設計上、天端高さを高くしなければならないのか。

- ・ 天端高さを低くして海面から構造物が突き出ないような潜堤で対策する方法もあるが、潜堤の場合、船の往来に注意しなければならない。船だけに限らず、サーファーにとっても危険性があるので注意しなければならない。実際に潜堤で検討する場合には、設置した際の波浪特性を事前に把握する必要があるだろう。
- ・ 現在のヘッドランドくらいの長さは、ウミガメには余り苦にならないと思う。むしろ、問題なのは、カゴマットである。ウミガメだけのことを考えると、形状、材質、配置の全てが間違っている。
- ・ ヘッドランドの両脇に堆積している砂には、植生が全然発達しておらず、生態学的にまったく意味がない。
- ・ カゴマットは災害復旧工事で設置したものである。背後が保安林で、守るべきものが安価であることから、工費が最も安いカゴマットが採用されている。県も、それを進めざるを得ないつらい思いがあったと思う。
- ・ ウミガメが上がるようなスロープやハマヒルガオが育つようなスロープがあれば防災上も効果があると思う。ウミガメやハマヒルガオなどを復活させるようにすることが大切だと思う。
- ・ 2,3号ヘッドランドは人の利用が多い場所であり、4,6号ヘッドランドはウミガメの上陸・産卵場所、7,8号ヘッドランドは地曳き網漁の場所というように自然にゾーニングされているように思える。
- ・ さまざまな意見があったが、一宮は侵食されている海岸なので、どう防護するのが第一の目的であり、防護、環境、利用という3つの観点で整備しないといけない。
- ・ 離岸流の問題については、事故などがないように安全な工法の検討を担当者、研究者の方にお願いしたい。
- ・ 今我々が考えるべき問題は侵食問題についてどう対策すべきかである。皆で楽しい海岸づくりの提案をするのも良いが、優先事項としては侵食対策を先決すべき。
- ・ 養浜については、既に漁業関係者との協議が整っている。養浜については、今回の会議の中で了解をいただきたい。(会場から拍手有り)

(まとめ)

- ・ 養浜については、賛同が得られたことから進めることとする。
- ・ 次回(第3回会議)では、今回の意見を基に県でいくつかの案を作成し、メリット、デメリットを整理して、それを基に今年度工事の進め方を決め、第4回会議では、次年度以降どうするかを検討することとする。

その他

- ・ 玉川町長から海岸利用などに関する合意形成を行う場として町長の諮問機関を設立する予定であるとの説明があった。
- ・ 次回(第3回会議)は、12月頃を予定していることを事務局から説明した。